JAPAN BARS

整理番号　：4039　　版番号　：1
改訂日　：　　制定日　：2023/7/27

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品

製品名	：	ダイハツ アミックス E.P グリース
製品コード	：	999-2404-8483-00
推奨用途及び使用上の制限	：	自動車のステアリングボックス内の潤滑用

会社情報

会社名	：	日本バーズ株式会社
住所	：	〒530-0047 大阪市北区西天満３丁目1−26
担当部門	：	研究開発部
電話番号	：	072-773-1000
ファックス番号	：	072-784-0584

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

発がん性　：　区分１

※記載のないものは区分に該当しない又は分類できない。

GHSラベル要素

シンボル

注意喚起語

危険

危険有害性情報

・　発がんのおそれ

注意書き

安全対策

・　使用前に取扱説明書を入手すること。
・　全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・　保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

応急措置

・　ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察を受けること。

保管

・　施錠して保管すること。
・　子供や認知症の方等の手の届かないところに保管すること。

廃棄

・　内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 ： 混合物

成分及び含有量(危険有害成分)

成 分 名	含有量(%)	CASNo.	化審法No.	安衛法No.	PRTR法No.
鉱油	80~90	非公開	非公開	168	非該当

モリブデン及びその化合物	1.5	非公開	非公開	603	453
結晶質シリカ	<1	14808-60-7	(1)-548	165-2	非該当
アセトン	<1	67-64-1	(2)-542	17	非該当

・ 化審法No. : 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 官報公示整理番号
・ 安衛法No. : 労働安全衛生法第57条の2 通知対象物質の政令番号
・ PRTR法No. : 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 指定化学物質の管理番号

他に危険有害性の基準に該当しない増ちょう剤、潤滑油添加剤を含有する。

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
皮膚に付着した場合 : 汚染した衣服を脱ぎ、石鹸や皮膚用の洗剤を使って水でよく洗い流す。異常があれば、医師の診断を受ける。
眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で 15 分以上、瞼の裏まで完全に洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。無理に吐かせずに、直ちに医師の診断を受ける。被災者の意識のない場合は、口から何も与えてはいけない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂
使ってはならない消火剤 : 棒状の水
特有の消火方法 : 可燃物を周囲から取り除き、高温にさらされる周囲の設備には水をかけて冷却する。
消火を行う者の保護 : 保護具を着用し、風上から消火活動を行なう。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際には、必ず保護具を着用し、風上で作業を行う。
環境に対する注意事項 : こぼれ出た製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 密閉できる空容器に回収する。
二次災害の防止策 : 風下の人を避難させる。漏洩した周辺には、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。
安全取扱い注意事項 : 通常の使用において有害性はほとんどない。必要に応じて保護手袋、保護眼鏡、作業着等の保護具を使用する。
接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照する。

保管

安全な保管条件 : 風通しの良い冷暗所に保管する。直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。水のかかる所や湿気の多い所に置かない。
安全な容器包装材料 : 破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

成分の暴露濃度基準 : 基準に該当する危険有害性物質を含有せず。

成分名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH(TLV)
鉱油	未設定	3mg/m³ (鉱油ミスト)	TWA 5mg/m³ (鉱油ミスト)
モリブデン及びその化合物	未設定	未設定	未設定
結晶質シリカ	未設定	未設定	TWA 0.025 mg/m³
アセトン	500ppm	未設定	TWA 250ppm STEL 500ppm

設備対策 : 屋外または換気の良い場所で使用する。取り扱い場所の近くに手洗い・洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具	:	適切な呼吸器保護具を着用する。
手の保護具	:	必要に応じて、保護手袋(ゴム製、ポリエチレン製などの不浸透性素材のもの)を着用する。
目の保護具	:	必要に応じて、適切な保護眼鏡(側板付き普通眼鏡、ゴーグル型など)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	長袖の作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	固体(ペースト状)
色	:	灰黒色
臭い	:	僅かな臭い
融点/凝固点	:	250.0℃(滴点)
沸点/初留点及び沸騰範囲	:	データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)	:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	:	(下限)1%　　(上限)7%
引火点	:	200℃以上(セタ密閉式)
自然発火点	:	データなし
分解温度	:	データなし
pH	:	データなし
動粘性率(動粘度)	:	データなし
溶解度	:	非水溶性
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び/又は相対密度	:	データなし
相対ガス密度	:	データなし
粒子特性	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	通常の使用条件では安定であり、反応する可能性は低い。
化学的安定性	:	通常の保管条件では安定である。
危険有害反応可能性	:	通常の使用条件において危険有害な反応を起こす可能性は低い。
避けるべき条件	:	熱、火花、裸火等の着火源
混触危険物質	:	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解生成物	:	燃焼の際には一酸化炭素等が発生する可能性がある。

11. 有害性情報

製品に関する情報

有用な情報なし。

個別成分についての有害性情報を記載する。

鉱油　※2

急性毒性(経口)	:	区分に該当しない	LD_{50}>5,000mg/kg(ラット)
急性毒性(経皮)	:	区分に該当しない	LD_{50}>5,000mg/kg(ラット)
急性毒性(粉塵ミスト)	:	区分に該当しない	LD_{50}>5mg/L(ラット 4h)
皮膚腐食性/刺激性	:	区分に該当しない	長期間又は繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるので注意すること。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:	区分に該当しない	ウサギによる複数の眼刺激試験において眼刺激性に区分する結果は得られていない。
皮膚感作性	:	区分に該当しない	ビューラーテスト(モルモット)により皮膚感作性なしとの結果である。
生殖細胞変異原性	:	区分に該当しない	広範囲な変異原性試験(in vivo 及び in vitro)が実施されているが、大部分の結果から、変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
発がん性	:	区分に該当しない	使用されている基油は、高度精製基油(IP346 法による DMSO 抽出物量 3%未満)であり、IARC ではグル

ープ 3(ヒトに対して発がん性について分類できない)に分類され、ACGIH でもほぼ同類の分類がなされている。EU による評価では発がん性物質としての分類は適用されていない。

生殖毒性	:	区分に該当しない	ラットによる発育毒性及び生殖毒性試験から得られた知見により、これらの毒性を示す結果は得られておらず、生殖毒性なしと判断する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:	区分に該当しない	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:	区分に該当しない	

結晶質シリカ ※2

発がん性	:	区分 1A	多くの疫学研究結果において、本物質(石英)を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した(IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている(IARC 100C (2012))。 一方、実験動物では雌雄ラットに本物質(空気力学的中央粒子径(MMAD):1.3 μm)を 1 mg/m3 で 2 年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質(MMAD: 2.24 μm)を 12 mg/m3 で 83 週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質(MMAD: 1.8 μm)を 6.1、30.6 mg/m3 で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた(IARC 100c (2012))。 以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない(IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第 1 群」に(産衛学会勧告(2015))、ACGIH が 2004 年以降「A2」に(ACGIH (7th, 2006))、NTP が結晶質シリカ(吸入性粒子径)に対して、「K」に分類している(NTP RoC (13th, 2014))。よって、本項は区分 1A とした。

12. 環境影響情報

製品に関する情報

生態毒性	:	情報なし
残留性・分解性	:	情報なし
生態蓄積性	:	情報なし
土壌中への移動性	:	情報なし
オゾン層への有害性	:	情報なし

個別成分についての有害性情報

鉱油 ※2

水生環境有害性 短期(急性)	:	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	:	区分に該当しない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄処理業者と委託契約をして、処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 中身を使い切ってから廃棄する。製品が付着している容器も廃棄物として適切に処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	:	非該当
国連分類	:	非該当
容器等級	:	非該当

国内規制

陸上規制情報	:	非危険物
海上規制情報	:	非危険物
航空規制情報	:	非危険物
共通注意事項	:	取扱い及び保管上の注意の項を参照するほか、運搬に際しては、容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。

15. 適用法令

消防法	:	非該当
労働安全衛生法	:	
表示対象物質	:	鉱油、モリブデン及びその化合物、結晶質シリカ、アセトン
通地対象物質	:	鉱油、モリブデン及びその化合物、結晶質シリカ
PRTR法	:	モリブデン及びその化合物
毒物及び劇物取締法	:	非該当
船舶安全法	:	非該当
港則法	:	非該当
航空法	:	非該当
下水道法	:	鉱油類排出規制(許容限度 5mg/L 以下)
水質汚濁防止法	:	油分排出規制(許容限度 5mg/L 以下)
廃棄物処理及び清掃に関する法律	:	産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)

16. その他の情報

主な文献

JIS Z 7253-2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z 7252-2019 GHS に基づく化学品の分類方法
GHS 分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構－NITE) ※1
危険物船舶運送及び貯蔵規則(海文堂)
緊急時応急措置指針(日本規格協会)
原料メーカーの安全データシート ※2

※備考

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、危険、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。
記載の評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。取扱う事業者は、本データシートを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処理を講ずることが必要であることをご理解の上で活用されるようお願いいたします。

改訂情報

第1版 2023年7月27日 : 初版発行